

## 江津地域の今後の県立高校の在り方について

### 1 第3回審議会での議論の概要

#### (1) 学科設定と定員のバランスについて

- ・ 江津高校の入学者数はここ数年60名前後を維持しており、普通科系の学びの定員を40人とするのは地域の中学生のニーズに合っておらず無理がある
- ・ 江津地域の子どもたちを江津地域で育て、定着させる、という考え方なら、地域の普通科のニーズに対応する必要がある
- ・ 江津工業高校はここ数年40人から50人程度の入学者。工業科の学びは1学級40人程度で良いかもしれないが、2学級60人だとゆったりとした定員設定で少人数指導が可能で良い
- ・ 2つの高校が統合されるときには対等性というのも大事な視点である
- ・ 教員配置を考えると工業科の学びの定員が多い方が良い。普通科系1学級・工業科2学級をベースに考える方が良い
- ・ 地域の産業界は人手不足。普通科系1学級、工業科2学級の方が産業界のニーズに応えられるのではないか
- ・ 次回は「基本的な方針(案)」と(案1)の2案に絞って検討

#### (2) 学びの内容について

- ・ 普通科系の学びについては、総合学科等の可能性も考えられる
- ・ 工業科の学びにも探究的な学びが必要
- ・ 島根県立大学やポリテクカレッジ島根との連携の中で、指定校的な学びの枠を広げることも学びの魅力につながる
- ・ 島根県立大学やポリテクカレッジ島根との連携にコンソーシアムが関わり、地域に活動が広がると良い
- ・ 地域資源や地域の関係者とともに子どもたちを育てるという視点から地域の意見は大切
- ・ 中学生の意見を聴いて学びの内容を設定する必要がある

#### (3) 詳細検討に向けた要望

- ・ 普通科系、工業科の枠にとらわれず、入学した生徒が柔軟に進路を選択できるような方法がないか検討できると良い
- ・ 中学生に学校や学びの魅力を伝えるためには学科の名称も工夫する必要
- ・ 学びを充実させるための教員配置を検討する必要
- ・ 女子生徒が進学したくなるような学びの工夫が必要
- ・ 支援が必要な生徒への対応を考えておく必要

## 2 学科設定と定員のバランス

(案1) 普通科系の学びを40人1学級、工業科を80人2学級とする

想定される学び		1学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>文系進学をめざすコース</li> <li>看護・栄養・保育などの資格職をめざす進学コース</li> </ul>	1学級 (40)	2学科 3学級 (120)
工業科	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械系</li> <li>ロボット制御系</li> <li>建築系</li> <li>電気系</li> </ul>	2学級 (80)	

- 定員設定の理由
  - 普通科系の学びは、これまでの江津高校の主な進路先である、文系進学と看護・栄養・保育などの資格職を目指す進学の2コースを設定
  - 工業科は、県西部の工業人材育成のため、これまでの江津工業高校の学びを維持し4コースを設定
  - 6コースを各20人とし、計120人の定員とする

(案2) 普通科系、工業科ともに60人2学級とする

想定される学び		1学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学をめざすコース(文・理)</li> <li>地域課題を探究し進学をめざすコース</li> <li>看護・栄養・保育などの資格職をめざす進学コース</li> </ul>	2学級 (60)	2学科 4学級 (120)
工業科	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械系</li> <li>電気系</li> <li>建築土木系</li> </ul>	2学級 (60)	

- 定員設定の理由
  - 統合する2つの高校の対等性を確保
  - 地域の普通科系の学びのニーズに対応するため、現在の江津高校の入学者数に近い60人を普通科系の定員とし、理系進学や地域課題を探究し進学をめざすコースにも対応する
  - 普通科系と工業科の併置を生かした相互の学びも検討していく

### 3 新設校の場所及び開校時期

- ・ 工業教育の実習施設・設備が必要であることから、新設校は江津工業高校の場所を念頭
- ・ 開校する時期は、教育課程の検討と、それを踏まえた施設整備のため、令和10年度前後を想定

### 4 今後の検討に当たっての留意事項

- ・ 方針の決定に向けてはパブリックコメントを実施するなど地域の声を聴く機会を持つ
- ・ 今後、学びの内容を具体的に検討する際には、生徒や地域の中学生の意見も踏まえる
- ・ 開校まで、または開校後であっても、地域や社会のニーズを捉え、時代にあった魅力ある学びとなるよう柔軟に対応し、必要があれば方針等を見直す

( 答申原案 )

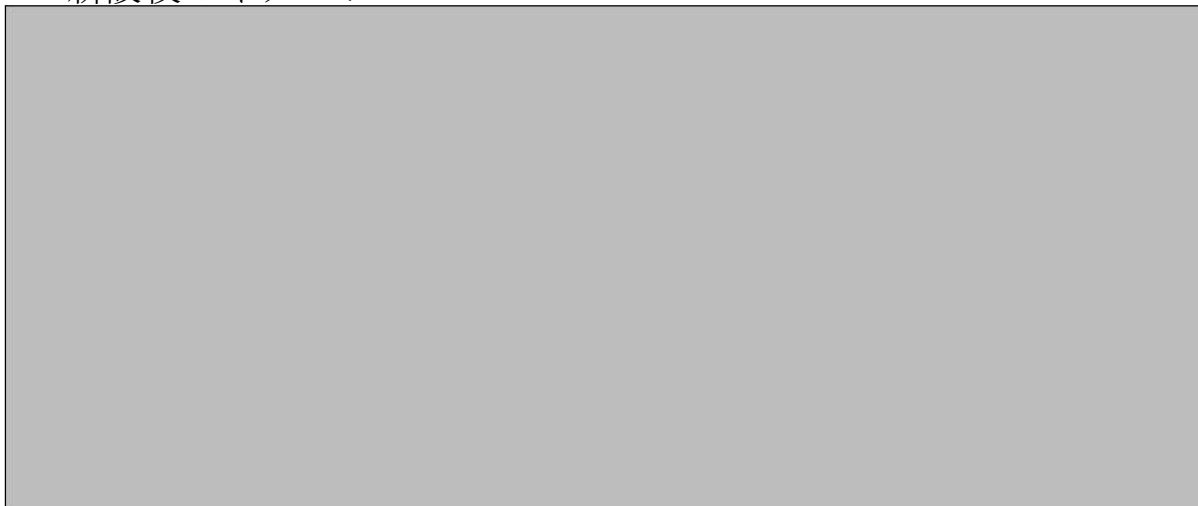
本審議会は、令和5年8月9日に島根県教育委員会より、江津地域の県立高校の今後の在り方について諮問を受けた。その後、地域関係者からの意見聴取などにより、江津高校、江津工業高校それぞれの高校と地域との関わりや子どもたちの学びや活動状況、人材育成の視点からの地元産業界のニーズなどを把握し、これまで4回にわたって県教育委員会が示した「基本的な方針(案)」に対する議論を重ねてきた。

江津地域においては、現状において、市内の私立高校の他、通学の利便性などから浜田市など他地域の高校に進学する生徒が一定数あるなど、中学生の進路の選択肢が多い。こうした中で、今後、更なる少子化が進み、県教育委員会が示した推計のとおり中学校卒業生数が減少すると仮定すると、江津地域の子どもたちの教育環境の維持、進路の選択肢を維持するためには、令和10年頃を目途に江津高校と江津工業高校の2校を統合し、新たな魅力ある高校を設置することが望ましいと考える。

そして、この新設校設置に向けた方針の議論の過程において重視すべき点は、現在の江津市内中学生の進路選択における普通科へのニーズの大きさと、県西部における工業人材を育成するための工業科の重要性である。

これらを満たす大きな枠組みとして、新設校における学科と学級数及びそれぞれの定員を以下に提示する。

<新設校のイメージ>



なお、この新設校は、県内初の普通科系の学科と工業科が統合する高校となる。また、地元の島根職業能力開発短期大学校（ポリテクカレッジ島根）や島根県立大学との連携を生かすことや、教員配置の充実等により、これまで以上に先進的で魅力的な学びが実現できる可能性がある。県教育委員会が今後、教育課程等の具体的な検討を進めていくに当たっては、上記の枠組みに加えて以下に示す視点を考慮することで、新設校が地域や中学生にとって、より魅力的で生徒一人ひとりの「なりたい自分」を叶える高校になると考える。

(1) 県内初の普通科系と工業科が併置された高校ならではの魅力の検討

- ・ Society 5.0 に対応した魅力ある学科・コース名を検討
- ・ 生徒の主体的な選択の幅がある教育課程の検討
- ・ 単位制や総合学科など、多様な学びのニーズへの対応を検討
- ・ 探究活動や課題研究などにおける、学科間での授業の相互乗り入れ
- ・ 普通科系の生徒が工業科の資格を取得
- ・ 工業科の生徒が普通科系の生徒と共に進学を目指す

(2) 地域や近隣教育機関との連携による魅力的な学びの検討

- ・ 島根県立大学やポリテクカレッジ島根との連携を深める
  - 探究活動や課題研究を連携・協働して行うことで、地域が必要とする知識や技術を身に付けようとする意欲を醸成
  - 先行履修や入学前単位取得、入学卒の確保による進学意欲の醸成
- ・ コンソーシアムを通じた幼・小・中と連携した探究活動の広がり

(3) 生徒一人ひとりへの指導・支援の充実

- ・ 学びを充実させるための専門性を備えた常勤教員の確保
- ・ 支援が必要な生徒に対する教育内容・方法の充実

#### (4) その他

- ・ 今後の検討においては、地域や中学生の意見を丁寧に聴取すること
- ・ 開校までの間、または開校後であっても、地域や社会のニーズを捉え、時代にあった魅力ある学びとなるよう柔軟に対応し、必要があれば方針等を見直すこと

このたびは、今後の中学校卒業生数の減少が著しい江津地域において、子どもたちにとって望ましい教育環境を将来にわたっていかに維持・向上させることができるかについて議論してきた。

しかしながら、少子化の進行は島根県全体が抱える課題であり、今回の議論は、今後の島根県全体の高校教育についての多くの示唆を含むものであったと考える。

県教育委員会においては、この答申を踏まえて今後の検討を深めていただくことを期待するとともに、魅力ある高校づくりが、魅力ある地域をつくることに繋がっていくことを期待するものである。

Society 5.0 …… 狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会を指すもので、サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会